

## 道外研修 東北コース(1日目)

報告者: 2年F組7番 川越 聖哉

東北研修の初日, 私たちは宮城県伊豆沼での水鳥研修を行いました。伊豆沼は, ロシアのツンドラ帯で繁殖を終えて, 長い道のりを渡ってきたガン類が集まる「水鳥の楽園」です。伊豆沼にはマガンやヒシクイ, ハクチョウをはじめとする大きな水鳥やマガモなどの小さな水鳥も飛来し, 数万を数える多種の鳥たちが越冬している様子を観察できました。

1月5日午後, 私たちが伊豆沼のサンクチュアリセンターに到着し, センターの方から伊豆沼の概要を紹介していただきました。その後, センターで研究をされている嶋田哲郎さんから伊豆沼で行っているUAV(ドローン)を用いた水鳥・湿地研究の発表をしていただき, 画期的な研究や調査方法に多くの刺激を受けました。またセンターではUAVの簡単な操作を体験させていただき, 今後の研究の参考になる貴重な経験ができました

(図1)。

同日夕方, 私たちは伊豆沼の北部の岸で水鳥のねぐら入りの観察をしました。「ねぐら入り」とは日中, 沼周囲の農地で採餌していた鳥たちが, 寝床である沼へ一斉に帰ってくることをいいます。研修中の宮城県では積雪はないものの, 気温が冷え込んでおり, 観察は寒さとの戦いの中行われました。水鳥たちが帰ってき始め, 観察開始から30分程経過すると, 上空にたくさんのガンたちが見えてきました。ガンたちが水面へ一直線に降りる姿を観察し, 目の前で壮大に広がる自然の動物たちの行動に圧倒されました(図2)。

また, 観察中に大きな発砲音が聞こえました。音の原因は蓮根をカモから守るために行われている事業でした。自然や動物の保全とそこから生まれる問題は切っても切り離せない関係です。その一例に「水鳥」と「食害」があるとわかりました。このようなところにも滝川高校のSSHテーマである「環境共生」を考える課題があることを知りました。



図1. 伊豆沼でUAVを体験する研修員



図2. 伊豆沼のガンたちのねぐら入り